

V. 大阪府立青少年会館・プラネットステーション

大阪府立青少年会館では、青少年の文化活動の拠点施設として平成2年に「プラネット・ステーション」を建設。そこで行われる主催事業は、青少年の手によって企画・運営されるもので、その運営に「イベントすたっふ」というボランティア制度が導入されている。ボランティアというより、青少年が主体になった事業を組み立てることによって、青少年の健全育成を図ることに主眼が置かれている。

📖 施設・運営の概要

運営母体	(財)大阪府青少年活動財団
所在地	大阪市中央区森ノ宮中央 2-13-33
TEL	06-942-5146
FAX	06-942-2448
開館年月	1965年4月(プラネット・ステーション1990年12月)
複合形態	複合館(ギャラリー併設)
施設特性	多目的
座席数	文化ホール：1,200／プラネットホール：140
自主事業予算	年間1,000～3,000万円
自主事業数	年間15本(平成八年度)
立地都市人口	2,599,642人(大阪市)
組織体制	総務系:11、企画系:4、技術系:14、計29 (青少年会館全体)



😊 ボランティア制度の概要

名称	・イベントすたっふ
導入時期	・1994.12
登録人数	・168名
導入の経緯	・主催事業は青少年の企画提案に基づいて、青少年のプロデューサーにより実施しており、その運営業務そのものも青少年の手に委ねて実施するためにボランティア制度を導入。
活動内容	・企画提案、受付・場内整理・観客誘導、舞台・音響・照明の補助
募集方法	・主催事業の企画を募集し、採用された企画の提案者が「チーフすたっふ」となる。その企画内容に基づいて「イベントすたっふ」を募集。
研修	・技術講座(6コース)。
実費支給	・予算の範囲内で活動費(交通費相当)を支給。
その他	・主催事業は、大阪府が総合プロデューサーに委託して実施している。委託先から派遣する形で、イベントすたっふのまとめ役として制作チーフを1名置いている。 ・企画の内容に関して、もっとオモシロイ、若者らしい“やんちゃ”なものが出てほしい。

施設側インタビュー記録

1. プラネット・ステーション設立の目的と運営

- プラネット・ステーションは、青少年の文化活動の拠点施設として、建設費8億、設備費3億で、平成2年12月に青少年会館小ホールの跡地に建設された。
- 府立青少年会館には、1,200席の多目的ホールの他に、複数の会議室やグループ活動室があり、演劇の練習に最も多く使われている。現在約200の劇団が登録しており、会議室が満室のときなどは、屋外の広場（ヤングスクエア）で発声練習をしたりするグループもある。
- 青少年を対象とした主催事業の技術サポートはボランティアのイベントすたっふが行っている。ただし、使用料を取る貸し館事業の場合は、専門のスタッフからなるホール課（5名）が対応している。
- 主催事業の場合でも、当然ホール課のスタッフが、状況によってはイベントすたっふにアドバイスをする。
- 施設の中の機器類は、基本的に自由にさわられるようしくみを取っている。
- 現在の稼働率は、ホールが約90%、スタジオが60～70%。
- プラネット・ステーションの年間事業費は、府からの委託料と補助金をあわせて約2,000万円。

2. ボランティア制度導入の経緯

- 主催事業は、若者のための若者のイベントを基本としており、大阪府が総合プロデューサーに業務委託して実施している。
- 開館当初は、その総合プロデューサーを経由して若手プロデューサーを募集して、5名（10代2名、20代3名）を起用し、各主催事業を実施していた。
- 事業を実施する際、プロデューサーが若手であること、また、扇町ミュージアムスクエアで若者を対象に実施したアンケートによると、若者の多くに、劇場やホールの舞台設備の技術操作、裏方さんに興味があることが明らかになったことから、運営メンバーとして、ボランティアのイベントすたっふを募集することになった（平成3年8月）。
- 青少年の健全な自己実現の場として、ボランティアの経験を提供することは意味のあることだと思う。

3. プラネットステーションとボランティア

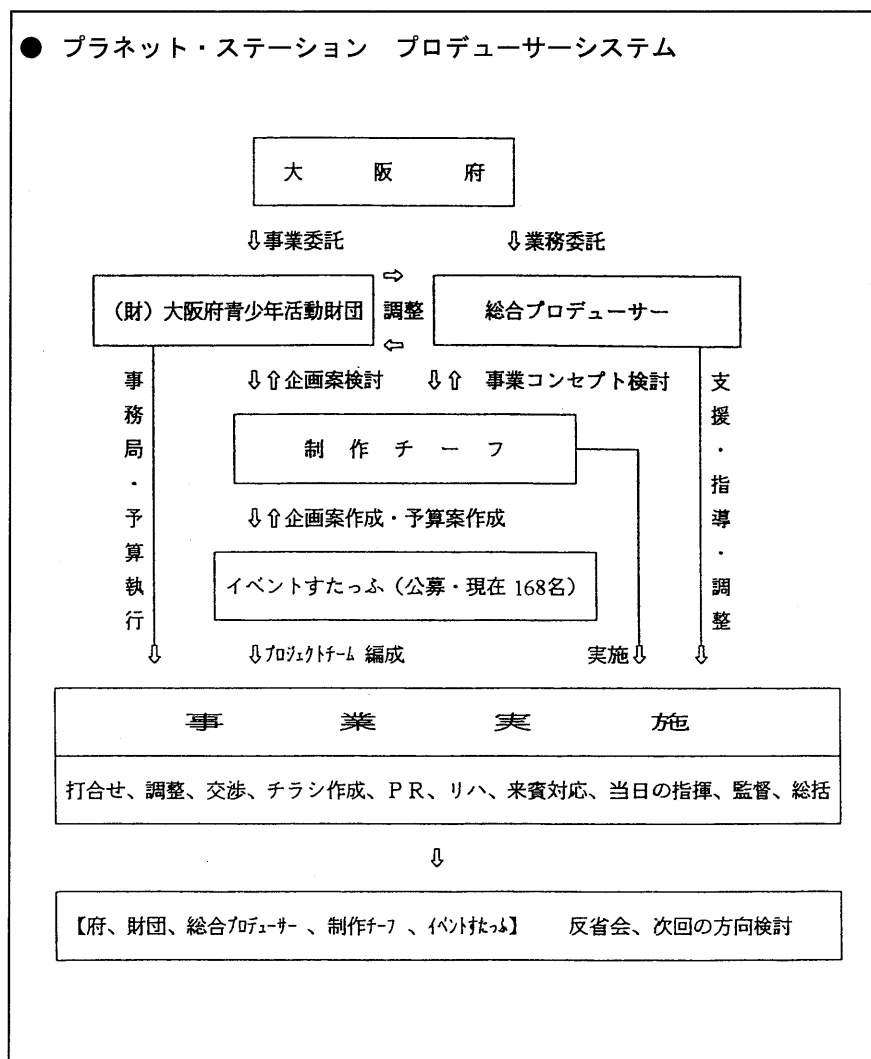
(1) プロデューサーとボランティアの役割

- 最初は総合プロデューサーが核になって事業を実施していた。翌年になって新たな若手プロデューサーを公募して事業を実施したところ、企画の立案が義務化してしまったこと、イベントすたっふの方が実績があつてプロ

■ 大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション

デューサーとの役割が逆転してしまったことなどがあり、必ずしもうまくいかなかった。

- そこで、イベントすたっふの中から各事業ごとのプロデューサー役となる「チーフすたっふ」を選び出し、他のイベントすたっふが事業の制作・運営をサポートするという方式に変更した（平成6年12月）。
- 平成8年度のプラネット・ステーションの主催事業は別紙のとおりである。このうち、最も大きな催しは毎年夏に行われる「プラネット・フェスティバル」と高校生のアマチュア演劇公演「プラネット演劇祭」で、どちらも100名程度のイベントスタッフが関わっている。
- 基本的にはやりたいことをやってもらうようにしているが、企画の実現に向けて糸口を見つけるなど手助けをすることもある。
- 企画の立案から当日の運営までは、基本的にイベントすたっふに任せているが、事業の実施に伴う予算経理上の手続きは館側の職員が対応。



■ 大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション

● 参考：平成8年度 プラネット・ステーション主催事業 イベントメニュー一覧表

イベント名		実施予定日 (仕込み、バラシ含む)	内 容
プラネット・フェスティバル (演劇、音楽、アート)		8/3(土)～4(日)	プラネット・ステーション全館を使って多様なイベントを展開し、幅広く交流する場とする。
演劇	HOSANNA	11/16(土)～17(日)	「HOSANNA」を主人公とした演劇で、プラネット・プロデュース公演とする。
	プラネット演劇祭'97	3/21(金)～23(日)	ややもすればコンクールを意識しがちな高校演劇に自由な演技ができる場を提供する。
プラネット・ジャム '96		12/14(土)	一般公募のアマチュアミュージシャンとプロミュージシャンの共演
映画	映像ワークショップ	6/23(日)、30(日)、7/21(日)	ビデオ撮影・編集などのノウハウを実践を交えて指導
	プラネット映画祭 '97	2/15(土)～16(日)	公募した自主製作映画とプラネット・プロデュース作品を上映
アート	THE WALL ART	9/2(月)～10/16(水)	会館防音壁の壁面を利用してアートを制作する。
	オムニバスアート	9/15(日)～30(月)	美術展終了後の不要となった材料を使ったアート展
技術講座	基礎編	5/18(土)～19(日)	照明・音響・舞台の初歩的技術講座
	中級編	1/31(金)～2/1(土)	同 中級講座
	プラネット・テクニカル・スクール	6/10(月)、6/24(月)、7/15(月)、8/1(木)、9/12(木)、9/26(木)、9/30(月)、10/5(土)、10/6(日)	照明・音響・舞台効果の実践の場
プラネット年鑑		3 月末日発行目標	平成 8 年度イベントの集大成の編集
日活浪漫劇場公演		10/19(土)～20(日)	プロ演劇
おかげ様ブラザーズ公演		12/15(日)	プロ音楽
演劇ワークショップ		9/21(土)～22(日)	
音楽ワークショップ		2/2(日)	

(2) 運営方法等

① 募集方法等

- まず、企画を募集し（多いときは30～40件の提案がある）、それに基づいてイベントすたっふを募集し、説明会を開催する（年1回）。
- イベントすたっふは基本的に応募者全員（30歳までの青少年）を受け付けており、現在168名が登録している。1回のイベントに協力するスタッフはイベントの規模によるが、20～100名程度。
- チーフすたっふがイベントすたっふとして仲間を連れてくるときもある。
- イベントすたっふには、予算の範囲内で活動費（交通費相当）を支給しているが、わずかであり本人の持ち出しとなっているのが現状。また、必要に応じて、昼夕の弁当を提供しているが、あとは無報酬。

② 運営

- 現在、イベントすたっふのまとめ役として制作チーフを1名置いており、イベント実施のための調整とともに、イベントすたっふの相談役としてプラネット・ステーションに常駐している。
- 具体的には、府の青少年課から㈱セカンドプロデュースに対して総合プロデューサーの業務委託を行い、㈱セカンドプロデュースから派遣されている。
- ボランティアの保険については、イベント保険に加入している。各イベント20名の補償に対応できる保険である。

4. 現在の課題と今後の方向性

- 企画の内容に関して、館側の“大人”が思うほど斬新な企画やアイデアが出てこない。もっとオモシロイ、若者らしい“やんちゃ”なものが出てきてもいいと思っている。
- イベントすたっふについては、もっと気楽にやって欲しい。例えば、具体的な用事がなくても気軽にプラネット・ステーションに顔を出すとか。
- イベントすたっふのたまり場として「プロデューサー・ルーム」を設けているが、そのことで逆に閉鎖的になったり、身内化してしまう危険性もある。
- プラネット・ステーションの自主事業としてイベントすたっふが何をやっているかが伝わりにくいので、インフォメーション機能を強化してほしいとの意見が強い。
- 現在のイベントすたっふは、館の自主事業にしか関わっていないが、ホールの運営全体に関与させてはどうかという意見もある。
- ただ、現在のイベントすたっふが一般の公演をサポートすることは、技術レベルと館としての責任の問題から難しい。借りる側にとってもあまりあてにできない。
- イベントすたっふの方から自主的に手伝いを申し出た例や、借りる側から手伝って欲しいという要望が出されたことはある。

■ 大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション

- 現在、外部への貸しホールに関しては、ホール課のスタッフが対応している。

－以上－

😊 ボランティア・インタビュー記録 😊

- Aさん（プラネット・ステーション・制作チーフ）
イベントすたっふのアドバイザー兼まとめ役。また、文化課とスタッフの橋渡し役でもある。）
- Bさん（今回のプラネットフェスティバルの舞台監督、大阪芸大学生）
- Cさん（今回のプラネットフェスティバルの照明チーフ、劇団にも所属、役者）
- Dさん（今回のプラネットフェスティバルの受付）
- Eさん（今回のプラネットフェスティバルのコスチューム担当、アルバイト）
- Fさん（今回のプラネットフェスティバルの企画「人」担当、専門学校生）

1. 参加の動機

Aさん | 音楽活動をしていたことから、舞台裏の仕事に興味を持ち、関連する講座を受講した際に総合プロデューサーに誘われた。制作チーフとしての活動歴3年目。

* プロのミュージシャンであり、芝居もわかる。イベントすたっふ全体のコーディネーションを依頼している。

Bさん | 高校生時代から劇団に属しており、プラネット・ステーションで開催された演劇祭に参加したことがきっかけで、M先輩（高校の先輩、プラネット・ステーションでは2代目の演劇プロデューサー）に誘われた。今年で2年目になる。

* 開館当初のプロデューサー・システムは、公募によって集められた演劇・音楽・美術・映画の各プロデューサー4名を固定し、その企画をボランティアが手伝う、という方式。①プロデューサーが交替すると、継続しているイベントすたっふの方がプラネットステーションのことを良く知っているという逆転現象が起こる、②企画が無い時のスタッフ間の情報交流が停止してしまう、などの理由によりこの方式は廃止された。

Cさん | 高校演劇がきっかけ。Bさんと同じ時期、M先輩に演劇プロデューサーのアシスタントをやらなかと誘われてイベントすたっふを始めた。活動歴2年目。

Dさん | もともと芝居をやっていた。M氏に勧誘された。

Eさん | 「ぴあ」でのイベントすたっふ募集記事を見て応募した。活動歴2年目。もともと裏方に興味があり、いくつかの劇団を受けてみたが採用には至っていなかった。始めた当初は何でもやってみたかったので、様々なことに挑戦してみた。衣装には以前から興味があった。

* 希望者は、舞台関係の技術講座を受講できる（一般に公開しているもの）。あとはやりながら覚える。上達すれば別のホールでアルバイトとして働いたり、プラネットから旅立って劇団付きの照明スタッフになった人もいる。

Fさん | プラネットステーションのテレホンカードを作成した人のチラシを見て、アート関係の友人が欲しくて応募した。去年は美術の装飾関係のスタッフとして活動したが、たまたま「人」という企画が今年のプラネット・フェスティバルのテーマとして採用され、より深く関わるようになった。

2. 満足度

Aさん | イベントすたっふはボランティアなので、結局は学校や会社など生活のメ

■ 大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション

インな活動が別にある。そのために、連絡なしに来ない、時間に大幅に遅れる、よって予定していた作業が進まない、などの状況が起こりやすい。現状では、その度に怒っていることもできないので、その状況の中で何ができるかを考えることにしている。

- 各スタッフの担当は、募集をした時の個々人の要望にあわせて割り振っている。

Bさん | プラネットには芝居がしたいと思って来たが、良い意味で自分が期待していなかった部分、つまり美術や音楽など他の分野に関する知識も得ようになり、面白くなった。プラネットに来ているイベントすたっふで劇団も結成した。

Cさん | 舞台・照明など役者以外のことを学べ、知識が広がった。“自分の好きなことをやりに来ている”ので、ボランティアという感覚はあまりない。

Dさん | 人間関係に広がりがあったのが良かった。いろいろな分野のことを体験させてもらえる雰囲気があった。プラネット・ステーションは、以前はただの“公共ホール”だったが、今では勝手にわかるようになり“好きなホール”になった。ボランティアという意識は当初からなかった。

Fさん | 考え方が以前より柔軟になったように思う。芝居関係の人達の話も素直に聞けるようになった。

3. 活動の頻度

Aさん | 週に5～6日は出勤している。時間帯は昼過ぎから夜閉館まで。この場所に常駐している人が誰かいないと、スタッフがフラッと来館した時に対応できない。特にボランティアが来るのは夕方以降だが、事務局の担当が定時（午後6時）で居なくなる場合があるため、橋渡し役がいないとコミュニケーションが充分にはかれない。

Bさん | イベント期間中は、毎日足を運ぶ。それ以外でも週1回は顔を出す。夕方来れば、誰かに会える。

Eさん | アルバイトをしながら、イベントがある時はほぼ毎日、仕事がなくても顔を出している。

4. 施設側への要望・課題等

Aさん | 実際、やりたいことがあれば何でもできる場所だと考えている。

- イベントすたっふは、様々な理由で数年で止めてしまい、その後のフォローが難しい。イベントすたっふを支え、バックアップできる体制をつくりたい。イベントすたっふを育てるイベントすたっふが必要。但し、限られた人だけが居心地の良い場所であっても困る。新しく来て新しいことをやってみたい人には、そのチャンスを与えたい。
- プラネットステーションの周辺に食べる場所が無いため、遅くまで活動・稽古をしていると不便を感じる。公共ホールであるがゆえに制約もあるが、何とか改善できないかと思う。
- その他、大阪市内の他のホールとの交流もしたい。プラネット・ステーション

■ 大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション

オン内部の活動が活発なのは良いが、内部だけでかたまっているような印象も持っている。

- イベントすたっふ全般に対しては、とにかく約束を守って欲しい。ボランティアであっても“来る”ことに対する責任感が欲しい。

* イベントすたっふの職業は、1/3が大学生、1/3が社会人、1/3がフリーター

Bさん | 何年か同じスタッフで活動していると、マンネリ化する。常にいろいろな面白い活動をしている人をスタッフに加える努力が必要。

* イベントすたっふは毎年募集。うち20%程度が継続。常時活動をしているのは20人程度。プログラム単位で活動するが、複数のプログラムに関わる重複スタッフもいる。

- これからは、もっと「芝居」がメジャーになるような活動がしたい。遊びに行くジャンルの中に、映画やスポーツなどと同じ並びで「芝居」に足を運びたくなるような企画をし、そうすることで、プラネットでの活動を広めたい。現状では、プラネットは芝居をやっている人にしか知られていない感がある。

Cさん | しいて言えば、この先も自分が好きなことをできる場所であって欲しい。

* イベントすたっふへの参加はロコミが多い。興味本位での参加は長続きしない場合が多い。スタッフの募集はちらしが中心となるが、ラジオ等の広報媒体にお願いすることもある。スタッフ公募の前にまず企画を募集する。

Dさん | プラネット・フェスティバルは分野を越えたイベントの一つだが、その他は演劇、音楽、美術、映画など分野ごとに活動している。分野を越えたイベントを企画して、プラネット・ステーションの前を歩いているようなサラリーマンにも参加してほしい。このような考え方をするようになったのは、プラネットの影響。

- プラネットホールの利用希望者が多く、抽選で利用日を確保するのが至難の技。個人的にはこの点が改善されると有り難い。
- プラネット・ステーションを発表の場として使用するのは、旗揚げして1～2年の劇団が多い。その他、打ち合わせや稽古場（青少年会館の会議室など）として使っている。劇団関係者の“集合場所”という感じ。「森ノ宮」と言えばプラネットステーションを指す。1階（要予約・パブリックスペースは無料）と2階はフリースペースで自由に使える。青少年会館が使えなければ、外の広場でも稽古をする。

Eさん | 貸し館としての青少年会館も午後9時の閉館までの使用を、せめて10時まで延長してもらいたい。

- イベントすたっふとして来る人がだいたいいつも決まっている。継続してスタッフを努める人もいるが、短期間でやめてしまう人も少なくない。“ボランティア”という意識で来ている人は長続きしないような気がする。“好きなことをやらせてもらっている”という意識の人は残っている。あと、ジャンルを融合した活動は、今後の課題だと思う。

Fさん | 「プラネット・ステーション」が一般に知られていない。この場所自体のPRを考えて欲しい。個人的には、実際に運営する立場にたつて裏の厳しさがわかった。それをふまえて、また企画を出してみたい。

—以上—